

みなと・新橋

# 今・むかし新聞

第10号  
令和3年3月

## 『語り継ぐ』

私達は過去の出来事や生活の様子を、歴史の教科書や小説などで知ることが出来ます。しかし、その時代に実際に人々はどのように感じ、どのように生きていたのか？ 直接聞かなければわからない部分がたくさんあります。

今年 私達は、「コロナ禍」といって、かつて経験したことのない時を過ごすことになりました。この経験を明日につなげるため皆さんに原稿をお願いし今・むかし新聞を今年も発行します。

## 『コロナに思い』

井上 繁

高校時代の不勉強が祟って、国立の大学は受けても合格は無理、私立なら文系であれば何とか受かるかも知れない。でも当時は学費の面で国立と私立では大きな差があり、我が家の経済状況から私大への進学は諦め、民間は勤め大学は夜学にした。

春から秋までは、会社と学校の両立は順調にこなした。だが冬のある日、夜学からの帰途、日比谷の停留所で乗換えの都電が来るのを待っていたが、戦災で焼け残った車両の数は少なく長時間待たされた。その間電車の窓の上を通り抜けてくる北風は冷たく、身体の芯まで凍る思いがした。

翌日は日曜、午後になって寒気がしたので、体温計で熱を測ったら目盛りの最高値まで一瞬に行ってしまった。そのうち全身が激しく震えだした。震えを抑えようと布団にへるまのその上に弟に馬乗のようになって貰ったものの容易には収まらなかつた。

それが始まりで、一週間で十キロ痩せ、やがて右肩の関節に強烈な痛みが起き三日間続く。

それが収まるまで今度は左肩の関節が同様な状態に。身体中の関節が次々と痛み、すべての関節が痛み終えるまでに二月、完全に回復するまで半年かかった。

病名は不明、というのは医者にかからなかつたか

ら。医者にかかれは恐ろしく入院を指示される、当時は未だ健康保険制度はなく、入院

ともなれば多額な費用がかかる、家計上の理由から避けるほかにな

った。その点今では有難い。コロナにして

も、いろいろな批判はあるが、国民挙げて対処してくれている。私は三密を避けマスクの着用や手指の消毒など気をつけてはいる。だが相手は目に見えないウイルス、侵される可能性は、絶無ではない。

もし罹患したら受療し、それで助からなければ運命と諦める。



## 『コロナに負けるな日本』

細矢 隆久

八十四才になった私がもう一度東京で新装した国立競技場でオリンピック大会が見られると期待していた矢先に「新型コロナウイルス」と言いつ目に見えない悪魔のおかげで一年延期になってしまい、果たして来年も開催できるのかどうかと心配になっている、今日此の頃です。

日本中の色々なイベント、各地のお祭り、花火大会など楽しみが止まっていたものが次々に中止になり、野球、サッカー、大相撲などが無観客での開催で始まり、ファンは声援も出来ず味気ないシーズンになってしまったのでした。

その後、少しずつ観客も増えて来ていますが、声を出しての応援や鳴り物等が禁止され、まるでお通夜の様で見ているつもりかもしれませんが、最近では

観客も以前の半分ほどに増加して、見ている人も楽しいスポーツ観戦が出来るのは、とても嬉しい限りです。

一人の日本人として、一日も早く普通の暮らしが果たして出来る様になってくれるのか、後期高齢者の私にとってもとても気掛かりなことです。我々日本人は戦争

## 頑張れニッポン

や大災害等、これまでも数々の困難に打ち勝って今日の繁栄を築き上げて来たのです。コロナウィルスなんかには負けるわけにはいかないのです。頑張れ日本、とエールを送り続けています。

## 『JUNGLE』

武 恒雄

物覚えが悪いのは承知だが、それにしても、コレハコレハ容易じゃないと思わされる

靴が欲しくなって型は色はと考えて、サイズはと

近頃、知人の名前、お気に入りの映画の題名など思い出せないこと度々あり、モウロク振りには気が付いてたが、帰る家路が分からなくなったり、喰ったばかりの飯を忘れたら入と進んでいるの

だろっか？ 及ばずとはいえ、このままズルズル降参は残念だ。朝七時に家を出て、モーニングコーヒーを

読者席では、調べ物したり、勉強する若者に混じって、老人も多い。良い刺激がいただける。午

そして午後はシルバースターへと席を移し、カマオケ。半世紀も昔の流行歌、覚えようとしたこともないのに、スラスラと唄えるから不思議だ。また、楽しみでもある。

おれの頭の中、一体どうなっている…… 『学童疎開の子供たち』

## 『学童疎開の子供たち』

竹地 由佳

2020年4月に緊急事態宣言が出され、子ども達

遊んでいていた児童館・動物園・水族館・博物館も休園。4月下旬からは公園の遊具にも「使用禁止」のテープが貼られました。これまで

当時の前だった子ども達の遊び場が消えていき、マスクやフェイスシールド、パーパ

の語り部の会に参加したとき、



## 『「克己」を教えた武井先生』

高橋 雅雄

卒寿を過ぎて新年を迎えるに自分の長年の生きざまや思い出に更けるようになった。

まず、恩人として浮かぶのは、私の小学校時代の恩師、武井春夫先生で、あこがれの的であった。神心小学校（今は廃校）の五年、六年と二年間の担任の武井春夫先生で、現在の武井雅昭港区長の御尊父である。

私にとって奇縁と言わねばを得ない。

武井先生はよく「克己」という言葉を口にされた。辞書には「自分の欲望や邪念にうちかつかつ」とあるが、私は子供心に魅力を感じ、今だに心の底にみついている。また先生は、運動能力に優れていて、特に剣道、体操の面では抜群で、その道の大会の晴れ舞台に一度ならずお立ちになった話をもち承



「学童疎開中、どんな遊びをしていましたか？」という質問をしたことがあります。当時10歳くらいで学童疎開を経験していた方が「オモチャはもちろ

ん、十分な文房具もなかったから、道端に落ちて

る棒の長さを競ったり、友達と雑草を引っ張り合っ

たりして遊んでいた」と、教えてくださった。

私はモノに不自由ない1980年代に生まれ、その学童疎開中の遊び方を聞いたとき、正直楽しいの

かな？ と疑問に思った一方で、自ら遊びを創り出す力に尊敬の念を抱きました。今回のコロナ禍、

力をもて余して外遊びをしたがる子ども一人を連れて、遊具が使えない公園に通っていました。

すると、当時3歳と1歳の息子たちは地面の土を掘って砂場を作り出し、水ですぐ濡れになりながら笑い合い、棒や石を集めることに夢中になって、

私からみれば不衛生と思える環境を子ども達は微塵も思わず、のびのびと楽しんでいました。これ

で、戦争を生き抜いてきた人はたくましい。そんな意識が私の中でありました。しかし、「コロナ

禍の子どもの遊びの様子から、もともと人間がもっている強さを目の当たりにしたように思います。時代にかかわらず、ひとりひとりがたくましく、強い

のです。

だからこそ、これまでの飢饉、戦争、災害、疫病流行などを乗り越えられて私たちの今があります。

コロナ禍において、最前線でも立ち向かっている医療従事者に心から感謝を申し上げます。そして、一日も早い終息を祈っています。

った、記憶がある。また、バレーボール、野球、柔道も厳しく教えを受けた。連日の厳しい訓練で、翌日、筋肉の痛みを告げると「痛いのは筋肉が増えている証拠だから喜べ」と激励され、その日のトレーニングには手心を加えてはくれなかった。そのお影が、九十才になった今日でも、足腰の強さが残っていることにつながっているのかも知れないと感謝している。

また、私にとって幸か不幸か、当時学校には水泳プールがなかったため、大人になっても水泳は苦手で通ってきたことを思うと、少年時代の体験の大切さをつくづく感じている。いつれにしても、何歳になっても自分に鞭打ち作ら、

二度とない人生だから」の一節に忠実でいたい。

### 『コロナ考』

神代 忠男

今や世界中でコロナ騒ぎで大変。併し日本の施政者のやり方は全く稚拙といふ方がありません。私は前太平洋戦争に学徒出陣として出征し終戦により帰京して見たものは東京の廃墟だった。これは米国の植民地になるか或いは世界で最低の国として残るか、とかしか思われなかった。ところがどうだろう。日本人の勤勉さと粘り強さが運も呼び思ったより早期に大国の仲間入り出来た。これは一重に本土決戦の前に戦を止めた為と思はれる。

「コロナ騒ぎも一種の戦争の様な物。第一にやる事は、第一波の終わった時に完全にコロナを治める事であった。その期を失った政府は経済とコロナの二つの事を同時にやろうとした。そして今でもその方向を変えない。

戦争の時と同じで経済の破綻は日本人の勤勉さと粘り強さでコロナ騒ぎが終わってから立ち直る事が出来ると思つ。今の様に一部の旅行関係・飲食関係を助ける為、GOTOトラベル・GOTOイート等は全くおかし。

昔から云つてはなにかー  
「一鬼を追う者は一鬼をも得らぬ也」



私は自由のない国に中国は嫌いだが今回のコロナ発生の地としての中国の完全な鎖国のやり方には完全に負けたと思つた。もっとも独裁的な国だけにその易い点はあるところも。

今からいって遅いところ。徹底的にコロナ退治をやってやれ。経済はその後どうでもよい。

### 『町と生活の変化』

池田 林太郎

私が住んでいる葛飾区の町は昔の新橋の様に、昭和の気風がまだ残っています。

年中行事が盛んで、盆踊り、運動会、お祭り、餅つき大会等々、町会が中心となり、大勢の人々が参加して楽しめます。ところが、コロナ禍のため縮小、中止が続ぎ、火が消えた様に交流が少なくなりました。

しかし私もステイホームが多く、都心に気軽に行かなくなりました。反面、読書、音楽、映画鑑賞の時間が増えました。

でも、高齢者は家に引籠り勝ちで、運動不足や精神的に問題が生じ易いので、町会では「さびげない見守り者」を登録して、近所の高齢者をフォローすることを決めました。

これも、日頃の「絆」があつたことだと思います。今後、世界の国々の政治、経済は激変し、日本もその渦に巻き込まれ、学び方・働き方日常の生活等に大きな変化が生じると感じます。

また、「東京オリンピック」の開催に関しては、賛否が問われていますが、国民とアスリートの健康を優先した策を希望します。

そして、医療の問題が一日も早く解決し、各種の会合、行事が復活して、皆の笑顔が直接見える日々を願っています。



### 『コロナ禍に思う』

宇和島 常子

「コロナ、コロナ禍、ソーシャルディスタンス、PCR、陽性、ワクチン、マスク、手洗い等々、この一年目まぐるしく振り廻され、何と家に留め置かれた事か・・・でもおかげで今日まで、風邪一つひかず、元気でいられる事に感謝・感謝です。

私はスペイン風邪は記憶にありません。インフルエンザの猛威は記憶にあります。このコロナ禍の恐怖を感じた事はなかったように憶えています。日本人は本来とても、素直で常識人です。決められたことは守るという人間性がこのコロナ禍をここまで押さえられて来ていると私は思います。



世界中の他の国々は考えられない程の罹患者の

多さ、命を落とす人の多さ・・・恐ろしいです。今日の日本のコロナの状況はやはりマスク、手洗いの徹底が大人若男女から子供まで徹底出来ている日本人だからです。しかし、今日あつても、まだまだ破目を外す若者たち、これがクラスターに繋がると解つても、欲望を抑え切れない若者がまだまだいる事、ここで、どうかワクチンが救世主となつてくれる事を心から祈るばかり。

### 『手を取り合い歩んだ人生を振り返り・・・』

中嶋 麗子

控えめで、とても優しい夫でした。そしてその優しさは私だけではなく周りの方すべてに向けられていたと思います。

長い人生を振り返れば、戦争があり、その後の復興期がありました。戦時中、爆撃にあつた夫は、ずっと背中に焼夷弾のかけらを残したまま生活してきました。取り除いたのは昨年手術でのこと。

心癒されるひとときといえば、大好きな音楽に触れている時間でしょうか。新婚の頃、なげなしのお金でクラシックのレコードを買い大事そうに耳を傾けていたことが、懐かしく思い出されます。

夫の祖父母と両親、そして私の両親の介護に、心を尽くし、見送つてから習い始めたのはバイオリン。孫のピアノに合わせたいと張り切っていました。」「じいちゃん、無理、無理」なんて言われてしまつて・・・子供達や孫、ひ孫にも、惜しみない愛情を注いだ家族思いな人でした。

「語の部」の設立から、「活動」、多大なる貢献いただきました。中嶋 弘様に対し、心よしの幸福をお祈り申し上げます。

「語の部」の設立から、「活動」、多大なる貢献いただきました。中嶋 弘様に対し、心よしの幸福をお祈り申し上げます。



戦争体験の学習会（令和二年十二月）

### はる一んの『語の部』ってなあに？

平成十三年「生涯学習ボランティア講座」事業として、生涯学習センター内校田小学校記念室に新橋界隈を中心とした区民の方々が集まり「昔の港区」の学習会を行っています。

平成十五年度からは、また小学校の学習支援活動として、語りのメンバーが小学校に出向き、子どもたちいろいろな昔の話をしています。

さらに平成二十八年からは、港区平和青年団の事前研修の一環として、高校生の皆さんとの交流会を行い、少しでも戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えるべく活動しています。

地域の歴史や暮らし、また戦争の貴重な体験など、過去を風化させずに未来へ語り継ぐことが大切であると考えております。残念ながら今年度はコロナの影響で活動に制約が生まれましたが、令和三年は、より良い活動を行きたいと考えております。ぜひ、興味のある方は、はる一んの語りの部担当までご連絡を、お待ちしております。

発行・問合先  
住所 〒105-0004 東京都港区新橋二一六-三  
電話 03-3431-1606 FAX 03-3431-1619  
公益財団法人港区スポーツ文化健康財団  
港区生涯学習ボランティア（はる一ん）